令和6年度

第1回ふじさわ人権協議会 議事録

日 時 2024年5月17日(金)午後2時から午後3時25分まで

会 場 藤沢市役所 本庁舎5階 会議室5-1・5-2

出席者

1 委員=10人

鈴木会長、入沢委員、須田委員、鳥海委員、江藤委員
ポッチャニー委員、都委員、宮城委員、萩原委員、森岡委員
(欠席) 深田副会長、岸本副会長、星野委員

2 事務局=5人

企画政策部 宮原部長
人権男女共同平和国際課 作井(課長)、濱野(主幹)
猪野(課長補佐)、中村(上級主査)

3 傍聴者 0人

内 容

1 後任委員への委嘱状の交付

2 議題

(1)人権施策推進事業の令和5年度実施結果及び令和6年度実施計画(案)
について

(2)藤沢市における「D&I」の定義について

(3)犯罪被害者等支援条例の制定について

3 その他

【令和6年度 第1回ふじさわ人権協議会】

- 事務局(濱野) 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回ふじさわ人権協議会を開催させていただきます。私は進行を務めさせていただきます人権男女共同平和国際課の濱野と申します。よろしくお願いいたします。ここからは着座にて失礼いたします。議事の前に、新年度の人事異動により、秋葉真之様が委員を退任されましたので、後任の都浩一様に委嘱状を交付させていただきます。本来であれば、委嘱状は市長から交付させていただくところですが、公務の都合により、企画政策部長の宮原から委嘱状を交付いたします。恐れ入りますが、こちらからお名前をお呼びいたしますので、その場にてご起立をお願いいたします。都浩一様。
- 都委員 はい。
- 企画政策部 宮原部長 都浩一様、ふじさわ人権協議会委員を委嘱します。期間は2024年4月1日から2025年3月31日までとします。2024年4月1日、藤沢市長鈴木恒夫。代読でございます。よろしくお願いいたします。
- 都委員 よろしくお願ひいたします。
- 事務局(濱野) それではここで、都委員から自己紹介をお願いいたします。
- 都委員 皆様、こんにちは。神奈川県教育委員会湘南三浦教育事務所、指導課長をしております都と申します。この4月から事務所の方で働かせていただいております。その前は、茅ヶ崎の小学校の教頭をしておりました。その前は、実は事務所の方で4年間ほど社会教育主事をしておりまして、そこで人権等についてもいろいろ関わらせていただきました。住まいは藤沢ですので、藤沢市のために、やれることを考えていきたいなと思いますので、いろいろ勉強させてください。よろしくお願いいたします。
- 事務局(濱野) ありがとうございます。次に、事務局も職員の異動がありましたので、紹介をさせていただきます。
- 企画政策部 宮原部長 藤沢市企画政策部長の宮原でございます。私は昨年度に引き続き、またよろしくお願いいたします。
- 事務局(作井) 引き続きこちらの課に在籍をしております。今年度から人権男女共同平和国際課の課長になりました、作井と申します。今年度もぜひよろしくお願いいたします。
- 事務局(濱野) 4月から保険年金課から参りました、濱野と申します。よろしくお願いいたします。
- 事務局(猪野) 4年目になります。人権男女共同平和国際課の猪野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

- 事務局(中村) 私も昨年度から引き続き務めさせていただきます。中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 事務局(濱野) 今年度は、このメンバーで事務局を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは、部長の宮原から一言ご挨拶申し上げます。
- 企画政策部 宮原部長 宮原でございます。改めまして皆様こんにちは。よろしくお願いいたします。藤沢市ではSDGsの取り組みというのを進めておりまして、このSDGsというのが、2030年に向けた持続可能な開発目標ということで、皆さんご存知かもしれませんが17の目標と169のターゲットがございます。今日、森岡委員も徽章をつけていただいているSDGsのマークもそうなのですけれども、このSDGsの17の目標と169のターゲットに、実は人権という言葉がほとんど使われていないのです。1か所だけ教育に関する領域があるだけなのです。それはなぜかという、いわゆる169のターゲットの全てに、権利なり人権というのを謳ったものであるということで、人権を尊重することなしには、2030年に向けたSDGsの持続可能な達成目標というのは、到達できないというのが前提になっているのだと思います。藤沢市でもこれからの地域社会において欠かせない要素である、例えば多様性の尊重であるとか、幸福な状態にあることという「ウェルビーイング」、そして最近ちょっと新聞等で出てくる「利他」という言葉があると思います。これは仏教用語だと思うのですが、他人の幸せを願うことという「利他」の実現に向けて、人権施策というのを強く進めていきたいというふうに考えております。一般的に、行政というのは、人権への取組は、リスクの管理の側面が強いような気がするのです。そういう面もあるのですけれども、これからは、あわせて考える機会を得たというような形で、施策の部分についても進めていければと思っておりますので、皆様からの様々なご意見をいただきまして、強く強く、一步一步、歩みを進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上、簡単ではございますが、ご挨拶をさせていただきます。よろしくお願いいたします。
- 事務局(濱野) ありがとうございます。ここで、部長の宮原は公務のため退席させていただきます。
- 企画政策部 宮原部長 皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。失礼いたします。
- 事務局(濱野) それでは本日の会議でございますが、深田委員、岸本委員、星野委員から、ご都合により欠席の連絡をいただいておりますが、ふじさわ人権協議会要綱第7条の規定に定める半数以上の委員が出席されておりますので、この会議が成立しておりますことをご報告いたします。次に、会議の公開・非公開についてお諮りいたします。本市におきましては、市政において重要な役割を果たしております各種審議会等の附属機関や、これに準ずる機関の会議は、市政運営や政策形成における公平性および透明性を

高められるよう、藤沢市情報公開条例第30条の規定により、原則公開としております。本日の会議におきましても、公開を原則として運営してまいりたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

- 事務局(濱野) ご異議ありませんので、ふじさわ人権協議会は公開といたします。また本日の会議でございますが、記録を作成する関係上、発言内容を録音させていただきます。ご発言をされる際は、職員がマイクをお届けいたしますので、マイクを使ってご発言くださいますよう、ご協力をお願いいたします。次に、資料の確認をさせていただきます。まず、次第と委員名簿が両面になっているものが1枚、議題1といたしまして、資料1-1と資料1-2、2つともA4の片面になっております。議題2といたしまして、資料2-1、議題3といたしまして、資料3、当日配布資料といたしまして、議題2に関する意見集約表がA3用紙で1枚ございます。資料の過不足等はございませんでしょうか。それでは、ここからの議事進行につきましては、要綱第5条第2項の規定により、会長にお願いしたいと思います。鈴木会長、よろしく願いいたします。
- 鈴木会長 皆様、こんにちは。本日もよろしくお願いいたします。では、早速でございますが、今日大体3時半ぐらいまでという目処を先ほど頂戴いたしました。活発なご議論のほどよろしくお願いいたします。早速、議題に入ってまいります。議題(1)人権施策推進事業の令和5年度実施結果及び令和6年度実施計画(案)についてということで、まず事務局よりご説明をお願いいたします。
- 事務局(中村) 議題1につきまして、令和5年度の人権施策推進事業の実施結果から順にご説明させていただきます。まず資料1-1をご覧ください。こちらは、ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針～藤沢市人権施策推進指針改定版～の章立てに沿って記載しております。まず、「第2章の2 人権教育・人権啓発の推進」といたしまして、藤沢市人権啓発講演会を6月2日、昨年度の第1回人権協議会と同じ日に、Fプレイスホールで開催し、委員の皆様にもご参加いただき、鈴木会長にご講演いただきました。そのほか、保健所との共催による「市民講演会」をYouTubeでの動画配信により実施いたしました。また、鳥海委員が委員を務めていらっしゃる人権擁護委員会の活動の一つとして、企業・福祉施設等での研修を支援いたしました。また、12月の人権週間・北朝鮮人権侵害問題啓発週間にあわせまして、本庁舎1階ラウンジでの著名人のメッセージパネルや、横田めぐみさん、特定失踪者の方の写真展示による啓発活動を行いました。次の「3 相談支援の充実」に記載の人権電話相談・人権特設相談につきましても、人権擁護委員会の活動支援でございます。その下の「4 パートナーシップによる取組」、「若年層への効果的な人権啓発の検討」につきましては、藤沢市子どもをいじめから守る条例に関する

リーフレットを作成し市内の高校1年生に配布しました。また2月のピンクシャツデーに合わせて、ピンクシャツデーと藤沢市子どもをいじめから守る条例を周知するポスターを作成し、市内の学校や施設に掲示しました。次に、「第4章の1 人権施策の推進体制」といたしましては、こちらの協議会や庁内組織であるD&I推進会議を運営いたしました。そのほか、職員への人権研修といたしまして、各課による自主的な人権意識啓発への取組や、D&I推進員、こちらは各課で1人選出いただいているものになりますが、そのD&I推進員向けのセミナーの実施、こちらは昨年度は鈴木会長にご講演いただきました人権啓発講演会をD&I推進員研修を兼ねて実施し、職員も参加させていただきました。それから、職員研修として、「ワークショップ 人権デュー・ディリジェンス研修」を職員課と共催で実施したほか、人権eラーニング研修をほぼ全職員を対象として実施しました。次に「3 研修啓発」といたしましては、本日ご欠席ですが、深田委員が所属される神奈川県人権センター様をはじめとした人権関連団体主催の講演会などに参加いたしました。令和5年度の実績は以上となります。

次に資料1-2をご覧ください。今年度の事業計画につきましては、こちらに記載のとおりとなっております。「第2章の3 相談支援の充実」のところの人権擁護委員による人権相談について、昨年度までは予約制の電話相談または対面相談という形で行っていましたが、今年度からは対面相談で予約不要というコロナ前の形に戻っております。議題1の説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○鈴木会長 ありがとうございます。藤沢市が行う事業でございますけれども、令和5年度の事業実績のご報告、そして令和6年度の事業計画ということで、この柱立ては全て人権施策推進指針の章立てに基づいて事業が紐づいているということでございますが、こちらの過年度の事業実績、そして今年度の事業計画について、皆様からご質問ご意見ございましたら頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。特によろしいでしょうか。1人でも多くの方が、こういったものにご参加いただけるよう、ぜひご周知いただければと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。では続きまして、議題の2番目になります。藤沢市におけるD&Iの定義ですね、ダイバーシティ&インクルージョンという今日の非常に大きなテーマ、皆様からもあらかじめご意見を頂戴しておりますが、こちらになります。まずは事務局より、ご説明をお願いいたします。

○事務局(猪野) 議題2のご説明をさせていただきます。藤沢市では、令和5年度からふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針に基づきまして、D&I推進会議の設置、D&I推進責任者・D&I推進員の配置など、D&Iを名称に付した庁内体制の整備を進めているところでございます。また、審議会等への女性登用比率アップに向けた市の対応方針におきましても、DEIの考え方を新たに示しまして、その浸透を図るべく取組を始めた

ころです。そのような中、用語の定義につきましては、ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針において、D&I推進会議の説明の中で、「一人ひとりが尊重され、多様性が受容されることで、個人の力が発揮され、組織や社会の発展や価値創造につなげていくこと」とD&Iの意義を定めております。そのことに対しまして、「発揮」、「発展」、「価値創造」など、比較的前向きな表現が並んでおりまして、生きづらさを抱える社会の多様性を踏まえていないのではないかとのご意見を聞いております。今後、このD&Iの考え方を、市が組織内外に対して進めていくことに対しまして、指針を踏まえて、時代に即した新たな定義が必要と考え、本協議会の議題に挙げさせていただきました。委員の皆様には、事前にご意見をいただいておりますが、ここで改めて率直なご議論をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

○鈴木会長 ありがとうございます。こちらのことにつきましては、皆様に、あらかじめいろいろなご意見をということでお聞きしているところでございますけれども、D&I、藤沢市は推進会議を持ちながら、その定義というのは微妙であったというところがあり、今回、再定義といいたいまいしょうか、よりわかりやすく伝わりやすいといった形でということになったわけでございます。当日配布資料ですね、これは、お寄せいただきました委員の皆様のお声をこのまま印刷していただいたものになりますけれども、進め方としては、せっかくこれだけたくさん意見が出ておりますので、少しご意見をお寄せいただいた委員から、短くて結構でございますので、このような思いがあつて、この意見を出したんだということを、少し触れていただきながら、このプリントについてご説明いただくということで、進めていこうと思つています。いろいろなご事情でご意見をお出しいただく機会を逸した方もいらっしゃるかもしれませんが、最後は、皆さんで、そういった意見を聞いて、どのようなことを思ったのかということ、また少し述べられるといいなと思つています。今日のこの議論のゴールは、ここで何か定義を作ろうということではなくて、これから、市が自らD&Iの定義を作っていくにあたっての様々な素材を提供していくような意味合いですので、いろいろな意見が出るのが望ましいというふうに思つております。では、早速でございますけれども、入沢委員からお話をいただいてもよろしいでしょうか。お願いたします。

○入沢委員 皆様こんにちは。入沢でございます。生きづらさを感じているということは、一見すると平等に見える機会でも、その方が置かれている状態によって、実は平等に機会に手が届いていない、その結果、社会の中で生きづらくなっているのでは、と考えました。その観点から、最近、ダイバーシティ&インクルージョンという言葉の中に、取り入れられている「Equity」という概念を入れてもいいのかなと思つました。

今の藤沢市様の定義、「一人ひとりが尊重され、多様性が受容されることで、個人の力が発揮され、組織や社会の発展や価値創造につなげていくこと」について、私の解釈ではございますが、組織・社会の発展・価値創造というのが最終ゴール、そして多様性が受容されて一人ひとりが尊重されているというのが、そのゴールに向かっての過程または手段。では、その前提は何ですか？といったとき、公平・公正というEquityが盛り込まれていてもいいのではと考えました。

今、ご覧いただいています絵図は、「Equity(公平・校正)」と「Equality(平等)」とは似て非なるものであることを示しています。インターネットからの引用で、著作権等を確認できておりませんので、この場限りでご覧いただければと思います。一番左側の絵では、3人の方が野球観戦をしています。塀を前にして、同じ高さの台を「平等」に用意されています。しかし、そもそも背の高さが違うのですから、同じ台を用意されても、結果的に野球を観られる方と観られない方がいます。“野球を観る”ということが目的なのですから、その目的にアクセスするには台の高さを調整する必要があります。同じ観点で、次のリンゴの絵もそうです。右下の絵はどうでしょうか。いろいろな人々が自転車に乗ろうとしています。上段はEquality(平等)を表し、全員に同一の自転車が平等にあてがわれています。体格や身体の特徴がそれぞれ違う中、乗れる人、乗れない人、サイズが合わない人など様々です。ここでの目的は自転車を見る・触ることではなく、自転車に乗ってどこかに行くことです。ならば、その目的にかなった、どこかに行ける自転車、をあてがうべきではないか、これがEquity(公平・公正)です。言葉では説明しにくいのですが、図を見るとおわかりいただきやすいと思いきご用意をさせていただきました。

- 鈴木会長 入沢委員、非常にわかりやすいご説明ありがとうございます。順番に説明いただくと思います。続きまして、須田委員から一言いただければと思います。
- 須田委員 須田でございます。本当に難しく、何と答えていいのか。いろいろな場面でそれを本当に平等と言えるのか。今よく言われる女性議員が何%など、女性を多く出せば、皆さん意識していると言われるけれど、私はそれによって発揮できる人も潰れているのではないかなと思います。女性を何%にしましょう。そうしたら、ある程度は平等になりますというのも違うのではないのかなど、いろいろなことを考えたら、これをどう答えていいのかわからなくて、そこで平等というのは、その人その人が置かれている障がいにして、いろいろな形にして、その人の個性であって、障がいではなく、性的なことにつけても、その人の個性であるというふうな形での受け止め方を、社会がしてくれればいいのではないかなというふうに考えています。
- 鈴木会長 ありがとうございます。続いて、深田委員ですが、今日ご欠席ということで、私が読ませていただきたいと思います。「ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針の

策定にあたっての議論の際には意識していませんでしたが、改めて「一人ひとりが尊重され、多様性が受容されることで、個人の力が発揮され、組織や社会の発展や価値創造につなげていくこと」という定義を読むと、以下の点が気になります。1「多様性が受容されることで」という部分について、受容する主体が判然としないように思います。2「個人の力が発揮され、組織や社会の発展や価値創造につなげていくこと」という部分について、発展的な成果を生まなければ、人としての存在価値がないと言われているような印象を受けてしまいます。企業や組織におけるD&I推進とは異なり、人権指針においては、多様性を尊重することによって、誰ひとり取り残さない社会、みんなが暮らしやすいまち、あるいは誰もが働きやすい職場環境をつくるのが大切であるという観点から、定義した方が良いでしょう。そこで、例えば以下のように定義してはどうでしょうか」ということでアイデアを出していただいています。こちらも併せてお読みいたします。「一人ひとりの多様な属性や個性、価値観を尊重することによって、すべての人にとって暮らしやすい社会や働きやすい環境を築いていこうとする考え方」あるいは「すべての人にとって暮らしやすい社会や働きやすい組織をつくるためには、多様な個性や価値観を尊重することが大切であるという考え方」ということで、ご意見をいただいております。ありがとうございます。続きまして今日ご出席の鳥海委員から、ご意見いただければと思います。

○鳥海委員 鳥海です。よろしくお願いいたします。私はこの定義を初めて読んだときに、文章が長すぎて、私の中で入ってこなかったのです。シンプルに「発揮」・「発展」・「価値創造」のこの3つのワードを外して、最低限伝わるように考えてみた結果「一人ひとりが尊重され、多様性を受け入れ活かすこと」。これで、何か私の中では十分伝わるのではないかなと思いました。森岡委員も「情報を詰め込み過ぎ」と書いてありましたが、まさしく私もそう思いました。あと萩原委員も「言葉の定義を狭くした方がわかりやすい」と書いていますが、私も全く同意見です。1回シンプルにしてみて、そしてここはもう少しメッセージ性を強くしたいという部分だけ言葉を足す感じで考えてみてはいかがかなと思いました。以上です。

○鈴木会長 ありがとうございます。続きまして、江藤委員からお願いいたします。

○江藤委員 江藤です。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。私もD&Iという言葉は知っていましたが、今回改めて勉強させていただいています。私自身は別に前向きな言葉が並んでいるということが悪いことだとは思ってはいません。読んだときに、とても未来に希望を抱くような感じもするので悪くは思わないのですが、それはたぶん私が今、特に生きづらさを感じてないからであろうというふうに理解をしています。では、生きづらい人とは、どういう人なのかなというふうに思ったときに、これは私の個人的な想像で

すが、例えば物質的に車椅子を利用している方が街に出て、狭い歩道に自転車がとまっていたり、車が乗り上げていたりという環境的な物理的に生きづらいという方もいらっしゃるでしょうし、あるいは身体的には、手足は動くし、そういうことには不便はないけれども、気持ちがとてもナイーブな方だと、前向きな言葉がかえって威圧的な自分たちが排除されているような気持ちになるのかなというふうに想像をしました。万人にとっていい言葉があるかという、ないのですけれども、ここは取り残されている人がいないか、前向きな私たちが気にかける。中にはやはり、「気づいて」と思っている人もいないかなと思います。自分から言えるくらいだったら、たぶん言っていると思うのですが、「言えない」、「苦しい」、「辛い」、「誰か気づいて」という方にとって受け入れられる言葉を考えると、もう少しソフトな言い回しの方がいいのかなというふうに感じました。以上です。

○鈴木会長 ありがとうございます。本当に様々なご意見をいただけて嬉しいなと思います。続いて、ポッチャニー委員からお願いしたいと思います。

○ポッチャニー委員 こんにちは。ポッチャニーです。よろしく申し上げます。難しい宿題でした。いろいろ考えて、金子みすゞさんの言葉である「みんな ちがって、みんな いい」という言葉が頭に浮かびました。そのものだと思います。そして、もう1回、ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針を読みました。指針に載っている部分で「わたしたちは一人ひとり違った人間で、生き方や考え方も人それぞれです。お互いの違いを認めあい、尊重しあいながら共に生きる社会を実現するためには、すべての人が、自分の人権と同じように、自分以外の人の人権を尊重する意識を持つことが大切です。」と、とてもやさしい言葉で説明しています。私は外国人ですが、すごく伝わってきます。伝わりやすい、簡単な言葉が一番いいと思います。それで「自分の人権と同じように、自分以外の人の人権を尊重する意識」が大切だと思います。認めあいといっても、たまにわからないじゃないですか。でも、自分の気持ちと他人の気持ち、他人の立場と自分の立場は同じだよ、とやさしく説明されていて、指針に書かれているこれを見た瞬間「これだ」と思ったのです。D&Iをどう説明するか、すごく難しいです。今書いてある定義は、会社向けのような感じがして、立場の低い方や何か悩みを抱えている方には、ふさわしくない言い方かなという感じはします。それに、一人ひとりが違うと言っても、今の社会は多数派が勝ちという感じになっていて、少数派は辛さを感じるという感じもするので、やさしい言葉で簡単な言葉を選んで書いてあった方がいいのではないかと考えます。よろしく申し上げます。

○鈴木会長 ありがとうございます。続きまして、岸本委員はご欠席でございますので、私の方から代読させていただきます。「D&Iの再定義を検討してみました。「一人ひとりが

お互いの個性、違いを尊重し合いながら自然体で過ごせること。」平易な言葉でわかりやすさを心掛けたつもりです。ただ、「D&I」をわかりやすく伝えるには、先ほどのポッチャニー委員の引用と同じですね。金子みすゞさんの『私と小鳥と鈴と』の詩がもっとも適しているように思います。「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」これ以上に、直接響く言葉でわかりやすくD&Iを伝える表現は思いつきません」ということでのお話でございました。ありがとうございます。続きまして、萩原委員からお話をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○萩原委員 こんにちは。萩原です。自分が今回感じたのは、このD&Iが市民全体を対象にしたときに、ハードルが少し高いのかなということです。先ほど、何人か委員の方もおっしゃっていたのですが、やはり今の生活が何不自由なく暮らせていたり、頑張れる人、頑張りたいけど頑張れない人がいる中で、頑張れている人が前提になっているのかなと少し感じました。なので、市民全体を対象とするのであれば、前向きな言葉ではあるのですが、個人の力が発揮されたりとか、社会の発展・価値創造というのは、市民の人たちがD&Iの意識を持った上で、さらにもう一つ上の段階の話をしているのかなと感じました。私は、D&Iの定義というのは、先ほど鳥海委員もおっしゃっていましたが、今あるものよりも、もっとシンプルに、今よりもハードルを下げるといいですか、市民全体を意識したものに変わった方が、より浸透もすると思うし、市民の中で理解も深まるのかなと思いました。以上です。

○鈴木会長 ありがとうございます。続きまして、森岡委員よりお願いいたします。よろしく申し上げます。

○森岡委員 私もサラリーマンをずっとやっけていまして、こういう言葉の定義というのはよくやっけていまして、「ああだ、こうだ」とまさにそういう意見が出るのはダイバーシティということなので、ひとつに固めるというのは、非常に難しいことだと思います。私は一瞬このオリジナルの定義を見たときは、あまり違和感を感じなかったのですが、言われると、確かに生きづらい方から見ると辛い表現だろうなというふうに思っています。といたしますのも、私はサラリーマンを辞めて2年経つのですが、2つNPOを応援してまして、1つは藤沢の優タウンという不登校の子どもたちの親子の支援をしているところと、もう1つは平塚市のぜんしんというNPOなのですが、ひきこもりの人たちの支援をしていまして、まさに生きづらい人たちとよく接してまして、この人にそんなに発展的な言葉をかけても、きついのかなと思っています。まずは元気になってもらって、今を認めてあげて、自己承認してもらわなくてはという気持ちもありまして、サラリーマン的には、この変更後というところで、前半は同じなのですが、「一人ひとりが尊重され、多様性が受容」ここは誰も否定しないと思うのですが、後半が「個人の力が発揮される共に、全て

の人が生き生きと活躍できること」と、生きづらい方には「生き生きと活躍」自体もハードルが高いかもしれないのですけれども、自分としてはそのくらいで両方目を配っているみたいな感じにして変えたという次第でございます。以上です。

○鈴木会長 ありがとうございます。森岡委員は様々な参考のところも表現がいろいろあるというのも素材を提供していただいて、ありがとうございます。本当に、森岡委員がおっしゃってくださったように、私は最後に何かまとめを綺麗にしなくてはいけないと思いつながら、森岡委員が非常に上手く大事なことを言ってくださったと思います。こういうふういろいろな考えをみんなで出し合うこと、これこそがD&Iであって、その中で中核となるものは何だろうかということ、これから少し皆さんとまたお話できればいいのかなと思うのですが、皆さんの話をお聞きになって、思うところがあれば、皆さんから少しお話しただければと思うのですが、いかがでしょうか。都委員、いかがでしょうか。その後、宮城委員からも少しお話を承れればと思います。

○都委員 ありがとうございます。私は、この定義が、どういう経緯でこういう形になっていたかというのが、わからなかったので、今回、それを皆さんからお聞きして、私も一緒に考えていきたいなというふうに思っておりました。ぱっと思ったことが、やはり学校現場、小学校なのですけれども、まさに多様な子たちがいて、面白い子たちがたくさんいてみんな違うし、集団としてもいろいろな世代がいる。1年生から6年生までいて関わっていくし、もちろん障がいがある子もいらっしゃいますし、今は国際的に、いろいろな国籍のお子さんがいらっしゃって、みんな違うのが当たり前というような意識なのかなというふうに思っています。子どもたちにも「自分が今持っているものは、それでいいんだよ」ということを、先生たちもすごく言っているのではないかなと思うのです。よく「みんなちがって、みんないい。」は学校現場でもよく使われるのですが、例えば自分が頑張れなくても、その自分らしさでそれでいいというような、それを認め合えるような人付き合いができるというと思います。そのためには、例えば、障がいを持たれている方も、それぞれ同じ障がいではないですね。いろいろな困り感があり、「いや、それはできるよ」ということもあったり、「そこは手伝いはらないよ」ということもあったりするので、それを対話していく。言えたり、聞けたりというような関係を作っていくというのが、すごく大事なかなと感じました。ですので、小さい頃から、みんな違っていいし、自分らしくていいというような当たり前な環境というのが、とても大事かなというふうに思いました。

○鈴木会長 都委員、ありがとうございます。学校現場の中での多様な子どもたちとの触れ合いの中でのご発言ありがとうございます。続いて宮城委員からも一言いただければと思います。

○宮城委員 皆様のご意見を伺っていて、やはり萩原委員の意見が非常にしっくりきたなと個人的には思っておりまして、同じように一人ひとりが尊重され、多様性を受け入れるといったところは基本にして、例えば会社でもそうなのですけれど、同じ成果を上げていても、頑張っている人と頑張っていない人がいたりとか、ものすごく頑張っているけど成果を上げられない人もいらっしゃるのかなとか、なかなか成果物的なものというか、そういうところに結びつけるのは、難しい事柄なのかなと思っていて、やはり誰もが自分らしく暮らせるといったところをめざすみたいな方がいいのかなと個人的には思いました。以上です。

○鈴木会長 宮城委員ありがとうございます。皆さんから一言ずついただきました。どうでしょう、皆さん、他の方のご意見を聞いて、お感じになることを少しディスカッションでできればいいなと思いますが、いかがでしょうか。

(入沢委員挙手)

○鈴木会長 入沢委員からお話をいただこうと思います。

○入沢委員 皆様のご意見を伺ってはっとさせられました。現在の定義が私には馴染みがあるといいますか、日々、目にすることが多い感覚でした。なぜかと思ったときに、どちらかという企業で設定しがちな定義であるからだと思います。共通の目的(企業理念など)の下に集う人々(社員)がいて、目標達成のためのダイバーシティです。企業目線の無意識のバイアスがかかっていました。市民のみなさまに掲げる定義としては、萩原委員がおっしゃる「市民一人ひとり」という点と「住みやすい藤沢市」という点をどちらも備えたものが素敵だと感じました。

○鈴木会長 ありがとうございます。皆さんいかがでしょう。

(森岡委員挙手)

○鈴木会長 どうぞ、森岡委員お願いいたします。

○森岡委員 できるだけ話はシンプルに収斂するようと思いつつ、冒頭から非常にはっとするお話を入沢委員から聞いたのですけれども、先ほどはNPOの話をしましたけれど、別途ロータリークラブにも入っていて、ロータリークラブではD&IよりもDEIと呼ぶことがよくあって、DとIと、しかもエクイティ、同じ立ち位置に立たせてあげることの視点も本当はあった方がより望ましいと思いつつも、てんこ盛りになってしまうのですね。ただ、皆さんにはこういう機会ですという見方もあると、リンゴを取る絵とか自転車とか野球を観る図は何回も見ているのですけれども、こういう形でまた皆さんに知っていただく視点の中にDとIとEもあるという意味では、入沢さんに非常にいい機会をいただいたかなと思っております。ありがとうございます。

○鈴木会長 ありがとうございます。エクイティのあの図は、いろいろな場で見られるようになってきて、私は福祉の方の人間ですけれども、結果の平等の保障も大事だけれど、その前に機会の平等が大事だというのはよく言われていまして、そのあたりのところで、やはり先ほどの箱を積み重ねて野球を観るとか、リンゴを取るとかというのは非常に今、福祉のところでよく使う言葉で「合理的な配慮」という言葉があります。「リーズナブルアコモデーション」という言葉なのですけれども、それは結局、一人ひとりに応じたサポートをしようと、例えば障がいと言っても本当に千差万別ですので、その人に合ったサポートをしていくオーダーメイドのものを作っていくという考え方がありますので、その部分では本当にEのエクイティの部分というのは非常に重要だと思った次第です。皆様のご意見に触発されて、そんなことを申しました。他に皆さんからいかがでしょうか。どうでしょう。ちなみに藤沢市の最初の定義は、どういうふうに誰が作ったのですか。経緯などわかる範囲で教えていただけたらと思います。

○事務局(猪野) D&I推進会議とか、D&Iという名称をつけていこうということが先行していたというところで、後から定義づけをしてきたので、より一般的な定義をそのまま採用したというところが経過となっていて、当時D&Iというのも組織の名前の定義のところに入れていただけなので、そこがしっかりと議論できていたかというところ、その部分では、あまりできなかったというところかと思います。深田委員のコメントの中にも、当時議論をそこまでしたかというところ、そこまではしていないのではないかというようなコメントを載せられていらっしゃるの、そういうことなのかなというふうに考えております。

○鈴木会長 猪野さん、ありがとうございます。私は藤沢市が、だから駄目だとか言うつもりは全くなくて、そもそもD&Iという考え方自体を取り入れていない行政機関もまだまだいっぱいありますので、その意味で言えば、先駆的に多様性とか受容とかインクルーシブなど、この辺りのところを使ってきたということですね。ここで藤沢市を立てるわけがありますけれども、これをもっと市民感覚にあった、地に足のついた定義にしようじゃないかという議論が出てきたというのは、非常にいいことなのかもしれないと思うのです。何も考えずにやれば、いくつかのインターネットの定義のいいところを切り貼りすれば、それっぽく出来てしまうものはありますし、まして今はAIに「D&Iのいい定義を教えてください」と指令を出すと、そこそこのものは返ってきてしまう時代になりました。だからこそ、こういった形で皆さんで意見を出し合って、市民の方によりわかりやすくというのを作っていくというのは、すごく大事なプロセスのような気がしております。皆さんから、もう少し何かあれば承っておきたいと思いますが、どうでしょうか。

(ポッチャニー委員挙手)

○鈴木会長 ポッチャニー委員お願いします。

- ポッチャニー委員 ふじさわ人権文化をはぐくむまちづくり指針に「困っている人を支えあいましょう」ということは書いてあるのですが、定義を見直したほうがいいのではないかと指摘された方は藤沢市のことをとても考えていると思いました。細部まで読んでいただいたのだと思います。藤沢市民のためというメッセージを書き加えた方がいいのではないかと思います。指針は、本当に困っている方々に寄り添っていきたいという感じで大変良いと思います。
- 鈴木会長 指針の中には既に良い文言もあるのだけれども、でもそれがうまく活かしきれていないのではないかと、そんな感じのことですかね。
- ポッチャニー委員 はい。だからこのように市民の方が良くないと言ってくださることがすごくいいと思います。
- 鈴木会長 そうですね。
- ポッチャニー委員 ありがたいことです。
- 鈴木会長 ありがとうございます。皆さんから出た意見はたくさんあったと思います。おさらいをしていきますと、入沢委員からは、Equalityではなくて、Equityの考え方の必要性、須田委員からは、「個性」というキーワードをいただいたかなと思っています。深田委員からは、かなり具体的なご提案もいただいております。「誰ひとり取り残さない社会」なんていう言葉も出てきます。これはSDGsの目標でございます。こんなものも出ていました。それから鳥海委員からは、わかりやすさ、シンプルにということ。これは非常に重要ではないかなと思っています。これは複数の方からのご意見があったかなと思っています。また江藤委員からは、万人にとってのわかりやすさを求めるのは難しい側面がありながらも、やはり考えてみると、前向きな言葉が並びすぎる部分のところでの、読み手の苦しさもやはりわかるべきではないかというご意見、そしてなるべくソフトな表現がいいのではないかというようなご意見をいただきました。ポッチャニー委員からは、一番下のところにもありますけれども、自分の人権と同じように自分以外の人の人権を尊重するという考え方の大事さであったりとか、一言で言うと自分事にするというのでしょうか、そういったようなことがあったかなと思います。また伝わりやすさ、簡単にということもご意見いただきました。岸本委員から同様に、先ほどポッチャニー委員が引用された金子みずぶさんのものも引用しながら、再定義ということでご提案をいただいて、「自然体で過ごせる」なんていうのは、非常に豊かな表現をいただいたかなと思っています。萩原委員からは、「住みやすく」というキーワードも出てきています。今出てきているものは、みんなにとって少しハードルが高いのではないかというご意見ですね。頑張っている人は、これはいいけれど、そうではない人たちもいろいろな人たちがいるので、どんな人でも受け止められるものをなるべくという発想を頂戴したかと思っています。そして、森岡委員

からは、入沢委員と同様にEのところもそうですし、さらにコンパクトにというところですね。そしてご自分のNPOでのお関わりの中で感じていることから、やはり社会的な弱者、生きづらさを感じた人への配慮については、やはりこの声にはしっかりと耳を傾けるべきではないかというお話をいただいております。こういう言葉がふさわしいかどうかわかりませんが、強者の論理で書かれている部分というのは、もしかするとあるのかもしれない。それが一人ひとりを大事にしたいという藤沢市にとっては、少し厳しいのではないかなというお声があったのかなと思っています。皆さんから多く出ている「よりわかりやすくシンプルに」というようなことを旨として、ぜひ藤沢市としてのD&Iの定義を作っていただきたいし、今日、皆さんの話を聞いて、たくさんのメモをとりメモだらけです。これは私にとって非常に良い体験でありましたし、嬉しいことでありました。であれば、例えば、定義を作ったらそれについて、こういう経緯があって、こういういろいろな意見があって、今こういうふうになっていますというようなもの、例えば説明書きのようなものを、あまり長くならないように作っていただくのもいいのではないかと思います。お一人お一人の委員の皆さんがおっしゃった言葉の中に含まれている大切なものを活かして、定義が形作られていっているのだという。私たちのやった経緯はどうでもいいのですけれども、こういう考え方もあるということについては、ぜひとも何か書いていただくのもありなのかなと思った次第でございます。課長、この辺りのところで、参考になるものになりましたでしょうか。一言コメントいただいて、次の議題に行こうと思います。

○事務局(作井) ありがとうございます。皆さんから送っていただいた内容を見たところから、職員が自分たちの中で考えているだけでは、浮かばないようなご意見もたくさんありましたので、委員の皆さんにこういったことをお伺いして良かったなというのを本当に実感しました。そして今日活発なご意見をいただきましたので、これを参考にして、市としてのD&Iの再定義をしていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○鈴木会長 ありがとうございます。まだまだもしかすると意見が出てくるかもしれません。それは積極的に市の方にお寄せいただくということをお願いしたいと思います。この議題、終わらせていただいてよろしいでしょうか。続きまして議題の3番目になります。犯罪被害者等支援条例の制定についてということで、こちらもまずは市からご説明のほどお願いいたします。

○事務局(中村) それでは藤沢市犯罪被害者等支援条例の制定について、資料3に沿ってご説明させていただきます。まず概要でございますが、本市の市民の方が犯罪被害に遭われた際に、犯罪被害当事者やその家族、遺族等が一日も早く日常生活を取り戻すことができるよう、地域において必要な支援を提供するため、犯罪被害者等支援に特化した条例の制定をめざすものとなっております。次に経緯でございますが、犯罪被害者

等基本法が平成17年(2005年)に施行され、その中で犯罪被害者等のための施策の基本理念や地方公共団体の責務等が定められており、地方公共団体は、地域の実情に応じた施策を策定、実施する責務を有するとされております。神奈川県は平成21年(2009年)に神奈川県犯罪被害者等支援条例を制定し、神奈川犯罪被害者サポートステーションを開設しました。また条例に基づきまして、神奈川県犯罪被害者等支援推進計画を策定し、犯罪被害者等への総合的な支援に取り組んでいます。令和6年(2024年)3月に県の計画が改定されまして、県内一律の犯罪被害者等見舞金制度や市町村が行う日常生活支援に対する補助制度の創設、市町村に対する助言や調整を行うコーディネーターの配置など、市町村による犯罪被害者等支援の取組への支援強化が図られました。次に現状でございますが令和6年4月1日現在、県内33市町村のうち、犯罪被害者支援に特化した条例を定めているのは11自治体となりまして横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、南足柄市、寒川町、湯河原町となっております。現在制定していない自治体でも、条例制定に向けて動いているところが増えている状況です。本市では、市民相談情報課において各種相談に応じる中で犯罪被害者の方からのご相談があった場合には、神奈川県、神奈川県警、民間支援団体の三者で構成される「神奈川犯罪被害者サポートステーション」をご案内しておりますが、市として直接的な支援は実施していない状況となっております。神奈川県、神奈川県警、民間支援団体の三者は、以前から市町村が犯罪被害者等支援を目的として条例を制定し、地域性の高い住民サービスを提供することを求めておりまして、その上で県は、市町村では実施困難な専門的技能を要する支援や、市町村が行うメニューへの財政的支援を担うなど、それぞれ役割分担しながら、求められる責務を果たすのが望ましいとしています。次に、求められている支援施策につきましては、そちらに記載のように、家事育児等の生活支援、ヘルパー派遣、一時保育、配食、住宅支援、犯罪被害者等支援に特化した条例の制定、支援窓口の広報啓発などとなっております。現在の状況ですと、お住まいの市町村が条例を制定しているかどうかによって受けられる支援に差がある状況となっております。この4月から県の見舞金制度が創設されましたが、住んでいる市町村が条例を制定している場合は、県の見舞金と市町村の支援金両方を受けられる場合もありまして、被害者の方が受けられる支援に差がある状況となっておりますので、県の方からも犯罪被害者支援条例を制定して支援を行うよう検討してほしいということを言われており、本市でも条例の制定を目指すこととなりました。庁内検討会議の立ち上げですとか、支援内容の検討などをこれから進めてまいります。皆様にご意見を伺うこともあります。どうぞよろしくお願いいたします。資料3の説明は、以上です。

○鈴木会長 ありがとうございます。新たに藤沢市犯罪被害者等支援条例の制定ということが上がっているというお話でございました。このことについて皆様から何かご質問ご意見ございましたら頂戴できればと思いますがいかがでしょうか。先ほどの中村さんのご説明の中では、今、県内では10自治体で実施されている。県内33分の10で進んでいるということで、県は一律のものが今年から始まったということでございます。ちなみに本当に不幸にしてこういった被害に遭われた方に対しての実際の支援の件数というのは、情報がございますでしょうか。どれぐらいの件数が、例えば市町レベルでは出ているのかという、何か情報があればと思うのですけれど、どうでしょうか。

○事務局(中村) 先ほどの「神奈川犯罪被害者サポートステーション」の方で昨年、支援を実施した件数のうち、藤沢にお住まいの方が対象だったものは10件程度ときいております。

○鈴木会長 なるほど。藤沢市で1年間10件ということですか。

○事務局(中村) はい。

○鈴木会長 わかりました。ありがとうございます。他に皆様から、どうでしょう。ご質問ですとかありましたら。

(ポッチャニー委員挙手)

○鈴木会長 ポッチャニー委員お願いします。

○ポッチャニー委員 支援を実施している10自治体との情報交換などはしていますか。藤沢市にとってモデルとなるような情報をいただける自治体がありますか。

○事務局(作井) 県が県域の自治体を集めての会議等を頻繁に開催をしております、条例を制定するよにという指示もありますけれども、その中で今、実際に実施をしている市町村がどういった支援をしているかなどは公開をされておまして、横浜、川崎、相模原などの政令指定都市ですと、大体同じような支援をしております。例えば、不幸にして犯罪で亡くなった場合の遺族への支援金一律30万円ですとか、重傷病を負ってしまった場合は10万円とか、そういった経済的な負担の軽減や、県の方で行っている精神的なカウンセリング等の支援、弁護士を含めた法律相談の支援、住宅支援として、例えば自宅で犯罪に遭ってしまった場合、そこが現場になってしまって住むことができないような状況もありますので、転居の支援ですとか、そこに住んでいることが危ないということで、避難する場合に、ホテルに一時的に何泊かするときの一時避難の支援などをやっている市町村が多いです。それ以外に、精神的肉体的なショックで食事を作ったりすることもできなくなってしまうケースがありますので、配食、今で言うUberEatsですとか、出前館みたいところで食事を配達していただいたときの支援ですとか、家事育児ができなくなってしまったときの日常生活支援、この辺りはやはり県としては、県がやるというよ

りも、住んでいる市町村で支援するのが望ましいということで、ぜひ市町村にやってほしいという意見が多く寄せられているところです。以上です。

- 鈴木会長 ありがとうございます。他に皆様からいかがでしょうか。これは今、検討が始まっていて、見込みとしては、どのようなスケジュールでしょうか。よろしければお教えてください。
- 事務局(濱野) 今、本当に準備を進めている段階でございます、令和7年度中に条例制定ができればいいなという感覚でございます。
- 鈴木会長 来年度中ということですね。ありがとうございます。他に皆さんいかがでしょうか。私、最後に一つだけご意見を申し上げたいのですが、この条例でいろいろなサポートがされるということは、とても大事なことだと思っておりますが、これだけで犯罪によって被害を受けて、激変をした人の暮らしが修復できるとは思わないので、一般施策とどう繋いでいくのかということがとても重要ではないかなと思います。要は緊急なところからサルベージするところの支援と、それから、その後、普通の生活に戻っていく、本当に長きを要することかもしれませんが、そこにソフトランディングしていくための、その後にきちんと繋がっていくかどうかという、この辺りが大事なのではないかなと思った次第でございます。私は福祉の方で虐待を受けた人の支援をしていると、いつかは普通の生活に戻っていくのですけども、そこに至るまでのところをきちんと結びつけられるかどうかというソフトランディングが大事だというのがあって、そのようなことを申しました。何かのご参考になればと思います。他に、皆様からいかがでしょうか。特によろしいようであれば、この議題も閉じさせていただきたいと思っております。ここまでで、今日用意された議題は以上でございますが、振り返りまして、今日、1番の人権推進政策推進事業の昨年の結果と今年の計画、それから、今日たくさんの時間を頂戴いたしましたD&Iのお話、そして最後に、犯罪者被害者等を支援条例ということでのお話、その中で何か皆様からのご意見や言い忘れたところ、あるいはもう少しというところがあれば承りたいと思っておりますが、大丈夫そうでしょうか。

(森岡委員挙手)

- 鈴木会長 どうぞ、森岡委員お願いいたします。
- 森岡委員 2つお伝えしたいのですが、被害者支援条例というのは非常に良い視点だと思っております、映画とかでよく出てくるのですが、精神的にダメージを受けるのでカウンセリングするというのは、よくある風景なのですけれども、それも含めて支援してもらっていると思うのですが、もう1つ、全く反対側の加害者の家族の人たちですね。この人たちも大変なことになっているのです。私は東野圭吾が好きなのですけれども、「手紙」という本があって、映画もできているのですけれども、弟がめちゃめちゃな人生になって

しまつて、そこからどう再生するかという話なのですけれども、そちらの視点もできれば入れて、優先的には、まず被害者の方だと思うのですけれども、発展的にはそちらの視点もどうかと思ったというのが1点と、私も人権文化をはぐくむまちづくり指針は、何度も見ていると、たくさん視点があって、全部で12の視点があるのですね。その中の2番目に、子どもの人権というのがありまして、昨日、たまたま図書館に行って、この「小川さゆり、宗教2世」という本があって、これは皆さん見たことある方も多いと思うのですが、非常に赤裸々に、いかに辛い人生だったのかということが書かれていて、こういうのは虐待と言えると私には思えるのですけれども、なかなか文章的にはそこまで落とし込めてなくて、ヤングケアラーはそうですね、いじめはそうですねと、これはお父さんお母さんがいじめているのではないかと思うのだけれども、その辺りも何か救ってあげられないかなと。安倍首相を殺したのはよくないのだけれども、親ガチャというか、親は良かれと思ってやっているのだけれども、子どもは選べないので、そんな中で苦しんで苦しんで頑張っている人の人権も守ってあげられないかなと思います。たまたま図書館でこの本が目につれて、借りて読んでいるとこなののですが、人権という意味でせつかくの場だったのでお話をさせてもらいました。ありがとうございました。

○鈴木会長 森岡委員ありがとうございます。本当に、今回被害者支援ということでありますけれど、加害者家族というの、本当に、皆さんご承知のとおり、今はネット・SNSで身元確定班と呼ばれる人たちが、ひどいと言いましょか、私が以前勤めていた大学で、学生が少しだけ悪さをしたのですね。それがちらっとSNSで流れた瞬間に、その学生の住所から顔写真から家族構成から全部SNSに流れて、今でも流れていますけれども、本当に恐ろしい思いをして、私たちもその学生を守らなくてはということで、非常に苦慮した思いがあります。犯罪の加害者の家族も守られなければいけないですし、あるいは罪を償った刑余者の人も、大きなものかもしれないということも、森岡委員の話からサジェスチョンいただきました。そして宗教2世、子どもの人権のところでは、私は福祉をやっていますので、今これも大きな課題になっていて、児童相談所では今、宗教2世の子どもについての対応を少し始めているということも聞いております。特定の宗教では、結果的に子どもの福祉、ウェルビーイングに差し障りが出るような状況が起こっていて、そこにどういうふうに見守りが介入するか、悩ましいながらも頑張っているところもあるというふう聞いていますので、この辺りももしかすると、今あるこの指針の中には盛り込めていない。しかし、新たな人権課題というものは、日々刻々出てきていると思うのですね。それをこういう場を使って、皆さんから言っていただいて、議事録に残していただいて、これが改定されるときに読み返してみると、委員からこういう部分のところが抜け落ちているのではないかという意見が出ているというのは、また良い材料になっていくと

思います。他にどうでしょうか。もう少し皆さんから何かありましたら、承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局(作井) 1点だけよろしいですか。

○鈴木会長 どうぞ、課長お願いいたします。

○事務局(作井) 今日、たまたまいらっしゃる委員さんが新しい委員さんばかりで、指針の改定のときにいらっしゃったのは宮城委員だけという状況の中で、宗教2世のお話が出ましたので。ちょうど安部首相の事件があった後のこの改定ということもありまして、最後の方に、当時の委員さんから、宗教2世について、この指針に何かしら書くべきではないかという話が出たのです。そこで、委員さんの中でもいろいろ話し合いをしたのですが、先ほど言った宗教で親が財産を全部寄付してしまうようなものもあれば、輸血の問題ですとかいろいろあって、なかなか書きぶりが難しいというところで、悩んだ挙句、今の指針の54ページの最後のところに、一文だけ、「最近では、教育機会の均等や信教の自由をめぐる課題」という書きぶりでおさえたという。文章にするのがすごく難しかったのです。何も書かないというよりは、やはり何かしら書いた方がいいのではないかと、はっきりと宗教2世というような書き方はしなかったのですけれども、一応、意識としてはあったというところですね。あともう1点、加害者家族への視点というのは、やはり先日の議会の中でも、犯罪被害者支援をしていきますということを答弁した中で、ぜひこういった視点もというお話をいただいたところです。会長からも先ほどお話がありましたけれども、更生支援、実際に刑を償った人の支援という視点もありますので、そういったところを、庁内ですと、福祉部の方で更生支援を行っておりますので、被害者支援とを同じ部署でやるわけにはというところもあって、分けて考えております。加害者家族の視点というのは、どちらかというとも更生支援の方の分野でやっていくのかなというような意識でおりますけれども、中ではそういった話が出ております。以上でございます。

○鈴木会長 ありがとうございます。本当に様々な人権課題に対して市ができることというのは、非常に限られている部分があるのかもしれませんが、今おっしゃっていたように、難しいけれども、かろうじて指針に載せたとか、やはり思いはみんなあって、セクションこそ違えども、トータルとして、藤沢市として、いろいろな人権課題に直面する人たちを支えているという部分は、今のお話から非常によくわかったところかなと思っています。ありがとうございます。他に皆さんからいかがでしょうか。特によろしいでしょうか。ないようであれば、以上とさせていただきます。その他のところになりますか、何か事務局からございますか。どうでしょうか。

○事務局(濱野) はい。

○鈴木会長 どうぞお願いします。

○事務局(濱野) 次回の第2回の協議会ですが、10月18日金曜日、午後2時から予定をしております。場所は、本日と同じ藤沢市役所本庁舎5階、会議室5-1でございます。開催日が近くなりましたら、開催通知をお送りしますので、よろしく願いいたします。また、本日の会議の議事録を作成次第、皆様にメールでお送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。次に、補佐からお願いします。

○事務局(猪野) 机の方に配布をさせていただいております。まずオレンジ色のカードで「パートナーとの関係で悩んでいませんか」というものがありますが、こちらは、DV相談窓口のカードになっておりまして、男性女性問わず、主にトイレなどに設置をいたしまして、どなたでも持っていけるように啓発を進めております。民間企業のスーパーとか百貨店などにもご協力いただきながら、広く周知をしております。新たに「かながわDV相談LINE」という神奈川県がLINEによる相談を開始しましたので、そちらも新たに載せさせていただいております。もう1つは青いパンフレットになります。戦争は最大の人権侵害などとも言われますけれども、こういった平和学習という取組もさせていただいております。ここでの参加者で対象になるとすると、萩原委員だけかもしれないのですが、小・中・高校生と大学生程度の18から23歳程度の方を対象として、公募しておりますので、お知り合いの方などにお声掛けをいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上になります。

○鈴木会長 はい。ありがとうございます。萩原委員どうですか。やはり若い力の皆さんにぜひご参加いただければと思います。他はよろしいでしょうか。他にないようでしたら今日はこれで終わりにさせていただきたいと思っております。あらかじめ意見集約も、ご協力いただきましたので、非常に要領よく、そして深みのある議論ができたかなというふうに思っております。また次回10月18日でございますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。本日閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○全員 ありがとうございます。

以 上